

北海道港湾空港建設協会

会報

平成26年 1 月

北のみなと

No.81



— 目 次 —

新春のご挨拶（北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹）…………… 1

Report

港関係団体と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催…………… 2

日本港湾空港建設協会連合会と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催… 5

港関係団体連絡会と北海道開発局担当者との意見交換会を開催… 8

受賞

北海道水産林務部 平成25年度水産土木・森林土木工事等優秀業者表彰… 9

各種記事

我が社の安全衛生管理

（白鳥建設工業(株) 管理部次長 高木 清志）…………… 10

工事現場紹介「江差港災害復旧その他工事」

（(株)森川組 江差港作業所 佐々木健吾）…………… 12

私の趣味「歌」

（岩倉建設(株) 執行役員 海洋部長 竹中 正）…………… 14

北海道開発局港湾部門におけるCPD認定講習会の取り組み

（北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課）…………… 16

Topics

イベント

苫小牧港西港区西ふ頭耐震強化岸壁 供用開始記念式典を開催…………… 18

白老港第3商港区 供用開始記念式典を開催…………… 19

独占禁止法及び反社会的勢力排除に関する講習会が開催される…………… 20

日本港湾空港建設協会連合会がセミナーを開催…………… 21

根室さんま祭り…………… 22

苫小牧港「ホッキまつり」大盛況…………… 23

追直漁港で室蘭さかなの港町同窓会…………… 23

大型客船寄港

室蘭港に全長310メートルの巨大客船が入港…………… 24

Information

事務局だより…………… 25

広報委員会だより…………… 25



寿都漁港は、ホッケ等刺し網漁業、イカ釣り漁業、ホタテ・カキ養殖漁業、小型漁船漁業、ウニ・アワビを対象とした浅海漁業の陸揚げ拠点として、また、近隣14漁港から陸揚げ・搬入される水産物を扱う水産物流通拠点漁港として重要な役割を担っています。

平成24年度に衛生管理対応の屋根施設が完成・供用を開始し、また、平成26年度には蓄養関連施設が完成する予定です。今後は、これらの施設を利活用した安全・安心かつ安定的な水産物の供給が期待されています。

新春のご挨拶



北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹

平成26年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、平素より北海道港湾空港建設協会の円滑な運営に多大なご理解ご協力を賜っておりますことに対しまして、厚く御礼を申し上げます。

平成24年12月に行われた衆議院議員選挙において、国土強靱化と景気回復を施策の柱とした自由民主党が大勝利政権につきました。さらに平成25年7月の参議院議員選挙においても政権与党が過半数を超えることとなる議席を獲得しました。

安倍政権は、経済再生と東日本大震災からの復興を最重要課題に位置づけることとし、大胆な金融緩和、機動的な財政政策、民間投資の喚起する成長戦略により、日本経済に回復の兆しが見え始めていますが、本年に実施される消費税の増税、円安による物価の上昇による影響も懸念されています。

国が将来にわたり繁栄していくためには、国土を災害に強いものとしたうえで将来への展望を明確にし、諸施策を的確に実施していくことが必要であると考えます。公共事業を中心とした緊急経済対策、国土強靱化対策など、将来にわたる計画的、安定的な公共投資政策が望まれるところです。

北海道は、農業の産出額、水産業の漁獲量・漁獲高も全国トップの地位にあり我が国の食料基地となっております。この高い食料供給力を効率よく発揮し、災害時にも機能を発揮することができる港湾の整備を着実に実施することが、活力があり魅力がある地域とするために極めて重要であります。

社会資本を着実に整備、維持し、災害に速やかに対応できる体制を確立するために、建設業の役割は益々重要なものとなっております。

長期にわたる港湾空港関係公共事業の縮減が一応納まった感があるものの、港湾空港関係建設業界は、過度の受注競争による利益率の低下などにより厳しい経営環境が続いており、特に海洋土木工事の技能、技術を継承していくことに苦慮しておりますが、会員各企業は、大変厳しい経営状況の中で港湾空港建設業としての社会的重要性を認識し、期待される役割を果たしていかなければなりません。

会員の皆様のご理解をいただきながら、ご期待に応えることが出来るように諸課題に取り組んでまいり所存であります。会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いするとともに、新しい年が皆様方にとりまして希望に満ちた、発展の年になりますことを心より祈念いたします。

港関係団体と当協会が 北海道開発局と 意見交換会を開催

 RH_{13}/H_0'
 b/H_0'

平成25年12月13日（金）ホテルポールスター札幌において港関係団体と当協会の共催で、国土交通省北海道開発局と「平成25年度港湾・空港・漁港事業に係わる要望・意見交換会」を開催した。出席者及び要望内容は以下のとおり。

なお、当協会が要望した5項目のうち回答があったのは、当日、要望説明をした2項目のみであり、下記の回答要旨は、その回答内容を事務局で取りまとめたものを記載している。



北海道開発局



港関係団体

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長	川合紀章
港湾計画課長	眞田仁
港湾建設課長	梅沢信敏
港湾行政課長	矢本欽也
空港課長	平澤充成
港湾建設課港湾保安保全推進官	早川哲也
水産課水産企画官	鈴木一行
港湾建設課課長補佐	阿部勝
港湾建設課建設第2係長	西澤英樹

◎港関係団体

○北海道港湾空港建設協会	宮崎英樹
会長	宮本義憲
技術委員会 副委員長	
○(一社)北海道建設業協会	

港湾・漁港部会部会長

坂 敏弘

港湾・漁港部会副部会長

百瀬 治

○(一社)全日本漁港建設協会

北海道支部副支部長

吉本正則

○(一社)日本埋立浚渫協会

北海道支部長

佐見 誠

北海道支部技術委員長

石脇雅生

○(一社)日本海上起重技術協会

北海道支部長

宮崎英樹

北海道支部技術積算委員長

小山良明

○全国浚渫業協会

北海道支部長

藤田幸洋

○(一社)日本潜水協会

札幌支部長

堀松宏朗

○港関係団体連絡会

会長

中村弘之

北海道港湾空港建設協会 要 望 事 項

平素は、当協会の業務運営に関しまして格別のご指導ご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発・向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

海に囲まれた北海道にとって、移出入、輸出入のほぼ全量を扱う海上輸送が生命線であり、その拠点となる港湾は北海道の根源的な社会資本となっております。また、我が国の食料基地となっており、食料自給率の向上を支え災害時にも機能を十分に発揮できる港湾の着実な整備が、活力あり魅力のある地域となるために極めて重要であります。

会員各企業は、港湾空港関係工事の施工能力を維持するため、一層の合理化などの経営努力を重ね、地域経済の活性化、雇用の安定を確保し、災害対応の重要な担い手になるなど、港湾空港建設業としての社会的重要性を認識し、期待される役割を果たしていく所存であります。

会員各企業の現状を踏まえ、下記に懸案事項を取りまとめましたので各別のご理解とご高配を賜りますようお願い申し上げます。

要 望 項 目

1 平成26年度港湾空港関係予算の確保について

国際物流機能の強化、食糧供給力の強化、地域経済活性化の支援、離島の住民生活の安定・安全の確保、老朽化対策などを推進するための港湾・漁港の整備促進を図る事が必要と考えております。

また、航空ネットワークを維持するため、基幹空港の機能の維持、向上を図ることが必要と考えております。

会員各企業の経営は、長期にわたる公共事業予算の抑制による事業量の減少と過度の受注競争による利益幅の低下傾向から、作業船の維持をはじめとする海洋土木工事の施行能力を維持することに苦慮しております。

これらの事情をご賢察のうえ、平成26年度の港湾空港

関係予算の計画的かつ安定的な確保をお願い申し上げます。

また、冬期間における工事量の確保に必要不可欠である平成25年度港湾空港関係補正予算（ゼロ国債予算を含む）の措置をお願いいたします。

【回答要旨】

平成26年度概算要求は、前年度当初予算と同額の144億4千万円を要求した。消費税導入年でもあり非常に厳しい査定となると思われるが、何とか前年同額を確保すべく努力する。

補正予算、ゼロ国債の確保は北海道にとって重要と認識している。

2 適切な発注時期について

港湾、漁港における海上工事の施工は、気象、海象の影響を受けて品質と安全の確保に支障が生じる事態、時節で変化する漁業活動に伴い工事の施工が制限される事態、また、総合評価落札方式による落札決定までに日数を要することとなる場合があります。

適切な工程管理の下で適期の工事の施工を確保するため、早期発注など地域特性に配慮した工事の発注手続きをお願いいたします。

3 一般競争入札における調査基準価格の引き上げについて

一般競争入札における落札金額が、調査基準価格に近い金額となる傾向にあります。

平成25年度から調査基準価格の算定式が、直接工事費×95%＋共通仮設費×90%＋現場管理費×80%＋一般管理費×30%から、一般管理費×55%に引き上げられましたが、建設業が適正な利益を確保し安定的な経営を維持するため、一般管理費の対象を70%以上に引き上げることをお願いいたします。

【回答要旨】

本省に力強く要望を伝える。

25年度の引き上げで北海道の港湾関係の落札率が1%程度上がった実績となっている。

4 配置予定技術者の評価について

総合評価落札方式の施工能力等の評価項目における配置予定技術者について、同種工事の実績は過去15年間の対象になっているのに対し、工事成績評価は過去4年間の対象となっております。

これまでの長期にわたる発注工事量の削減に伴う受注工事量の減少に対応して、工事成績の対象年数の緩和をお願いいたします。

また、監理技術者と同様の資格を有する現場代理人について、同等の工事实績、工事成績評価点を与える制度をお願いいたします。

5 工事施工の対応について

工事の施工に当たっての現場における自然条件や施工性に関する不具合等について、必要に応じて意見交換をさせていただきますようお願いいたします。

——— 以下、他協会の要望事項 ———

(一社) 北海道建設業協会 港湾・漁港部会

1. 公共事業予算の安定的・持続的確保について
2. 平成25年度予算の追加補正措置（ゼロ国債を含む）について
3. 防災・減災に不可欠な基盤施設の整備について
4. 工事の発注時期について
5. 地元建設企業への受注機会の確保について

(一社) 全日本漁港建設協会 北海道支部

1. 防災・減災対策の更なる推進について
2. 若手技術者の育成について
3. 工事の早期発注及びゆとりある工期の設定について
4. 協会員への受注機会の確保について

(一社) 日本埋立浚渫協会 北海道支部

1. 港湾関係公共事業について
2. 技術提案評価型（S型）工事について
3. 配置予定技術者の工事成績対象期間の緩和について
4. 配置予定技術者の工事成績適用の拡大について

(一社) 日本海上起重技術協会 北海道支部

1. 平成26年度港湾関係予算の確保について
2. 地元業者への工事量の確保について
3. 登録海上起重基幹技能者の評価について
4. 作業船の保有及び代替建造に対する支援について
5. 低入札価格調査基準価格の再引き上げについて
6. 実態に即した起重機船の回航・えい航費について

全国浚渫業協会 北海道支部

1. グラブ浚渫工事量の確保・増大について
2. 作業船の課税負担について
 - ①租税特別措置法改正に伴う作業船の課税負担軽減への対応について
 - ②非自航作業船の固定資産税課税標準の特例適用の拡充について

(一社) 日本潜水協会 札幌支部

1. 港湾潜水工事量の確保について
2. 港湾潜水技士資格の活用について
3. 「潜水工事」を建設業法に定める専門工事として追加規定することについて
4. 改正高気圧作業安全衛生規則への対応に関する支援について

日本港湾空港建設協会連合会と 当協会が北海道開発局と 意見交換会を開催

R/H13/H14

b/H0'

平成25年12月12日（木）ホテルポールスター札幌において日本港湾空港建設協会連合会（日港連）と当協会の共催で国土交通省北海道開発局と意見交換会を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



北海道開発局



日港連

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長
港湾建設課長
港湾行政課長
空港課長
農業水産部水産課長
港湾建設課 港湾保安保全推進官
水産課水産企画官
港湾計画課課長補佐
港湾建設課課長補佐
空港課課長補佐
港湾建設課建設第2係長

川 合 紀 章
梅 沢 信 敏
矢 本 欽 也
平 澤 充 成
岡 貞 行
早 川 哲 也
鈴 木 一 行
星 道 太
阿 部 勝
高 木 哲 夫
西 澤 英 樹

◎日本港湾空港建設協会連合会

会長
専務理事
技術委員長
技術委員
技術委員会WG委員長

川 島 康 宏
幸 田 勇 二
大 滝 雅 宣
高 木 幸 夫
小 松 英 則

◎北海道港湾空港建設協会

会長
副会長
副会長（技術委員長）
副会長（広報委員長）
副会長（企画委員長）
技術委員会副委員長
技術委員（部会長）

技術委員（副部会長）
技術委員

技術委員
技術委員
技術委員
技術委員
技術委員

宮 崎 英 樹
吉 本 正 則
藤 田 幸 洋
佐 見 誠
西 村 幸 浩
宮 本 義 憲
中 村 弘 之
（日港連技術委員）
石 脇 雅 生
杉 本 義 昭
（日港連技術委員）
手 塚 定 雄
岩 城 儀 人
竹 中 正
柴 田 政 雄
岡 崎 光 信

要 望 事 項

日頃より、私ども日港連の活動に深いご理解と温かいご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。

当連合会は、「港湾空港建設技術の開発及び向上」と「港湾空港建設業の健全なる発展及び社会的地位の向上」を目的に掲げ、港湾空港整備を担う建設業者が加入する全国の都道府県協会を結集して1984年（昭和59年）に設立され、以来30年を数えます。

この間、日港連の会員各社は一貫して我が国の経済、産業を支える港湾・空港インフラの整備に携わり、建設業の立場から我が国の発展に寄与してまいりました。

さて、昨年末の政権交代により安倍内閣が発足し、長引くデフレ経済脱却を目指して種々の施策が展開されています。その結果、GDP等の経済指標が向上するなど明るい兆しも見え始めております。この流れを更に加速させていくためにも積極的な公共投資、中でも経済社会の基盤である港湾の機能強化が必要と考えます。

一方、これらの社会資本整備を担ってきた港湾空港建設業界は、永年続いた公共事業抑制による事業量の減少と過度な受注競争により疲弊しております。このままでは将来、作業船を維持していくことも困難となり、災害対応業務等を担う地域建設業としての存続も危惧されます。

このような現状を踏まえ、私どもが抱えております当面の懸案事項等につき、下記のとおり要望申し上げますので、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

要 望 項 目

1. 港湾関係社会資本の計画的な整備推進

我が国の経済を再生し、地域の活力を取り戻すためには、国際物流や地域経済を支える港湾機能の強化が必要です。また、東日本大震災の速やかな復旧・復興とともに、今後発生が予想される首都直下地震や南海トラフ巨大地震に対応した総合的な防災・減災対策の推進や老朽化施設への対応など安全・安心の確保も急がなければなりません。

また、これらの事業推進に当たっては、建設企業が中長期的な視野に立った経営戦略が立てられるよう事業量の中長期的な見通しの明示が望まれます。

つきましては、厳しい財政状況下ではありますが、これら関係施策の推進に必要な予算を計画的かつ安定的に確保するとともに、今後の事業展開について地域ごとの中長期的な事業量の目標を明示していただきますようお願い申し上げます。

2. 港湾空港建設業の健全な発展が可能となる環境整備

港湾空港建設業界は、永年続いた公共事業抑制による事業量の減少と過度な受注競争により疲弊しております。現状では、やむを得ず作業船を売却或いは廃船するなどして経営を維持している会社も多く、このような状況が継続すると近い将来、必要な時に所要の作業船の確保ができないといった事態も懸念されます。

政府では経済再生に向けてアベノミクスの取り組みが進められており、この取り組みを成功させるためにも、各分野での具体的な取り組みが求められています。そこで、経営環境の厳しい港湾空港建設業におきましても、適正な利益を確保し、これを将来への設備投資とし、更に成長に繋げるという好循環の流れを作る必要があります。

つきましては、港湾空港建設業の健全な発展が可能となるよう、以下の項目についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

(1) 入札・契約制度の更なる改善

①多様な入札契約方式の導入

技術力競争により企業を特定した上で、価格交渉して契約する方式や若手技術者の確保など中長期的な担い手確保に資する多様な入札契約方式の導入。

②調査基準価格の引き上げ

ダンピング排除、適正利益確保に向けた一般管理費・算定率等の更なる引上げ。

③総合評価落札方式（二極化）の改善

受発注者双方の業務簡素化に資する運用の改善。

(2) 請負工事実施における双務性の向上

①適時、適切な設計変更協議会の開催

設計変更協議会開催による受発注者相互の合意形成の向上。

②工事検査等における書類の削減

工事検査に必要な書類をガイドラインに明示するなど書類の削減。

(3) 作業船の保有・維持のための環境整備

①作業船の代替建造に係る税制特例の復活

作業船の代替建造に係る譲渡益の圧縮記帳、損金算入制度の復活。

②作業船保有に係る固定資産税の軽減措置

作業船保有に係る固定資産税（償却資産）を内航船舶並みに減免。

③大規模災害時の航路啓開業務の効率化

作業船による円滑な航路啓開業務態勢を確保するための環境整備。

(4) 工事請負契約書に係る印紙税の全廃

二重課税ともいえる不合理な印紙税の全廃。

港関係団体連絡会と北海道開発局担当者との意見交換会を開催

平成25年11月27日（水）北海道建設会館において港関係団体連絡会（中村弘之会長）は、北海道開発局と「平成25年度港湾・空港・漁港の工事に関する意見交換会」を開催した。

北海道開発局から港湾空港部の梅沢信敏港湾建設課長、平澤充成空港課長、農業水産部の岡貞行水産課長など7名が出席、港関係団体連絡会から中村弘之会長、榎本喜則副会長、石脇雅生副会長など17名が出席して意見交換を行った。主要要望内容は以下のとおり。



北海道開発局



港関係団体連絡会

主 要 要 望 内 容

入札・契約に関する要望

1. 工事の発注時期について
2. 見積書の提出時期について
3. 工事費内訳書の配布について
4. 積算条件の明示について
5. 工事成績の評価対象項目の公表について
6. 地域精進度・地域貢献度について
7. 配置予定技術者への緩和方策について
 - ①工事成績期間の緩和
 - ②現場代理人を加点の対象に
 - ③フレックス工期を採用した契約方式
 - ④監理技術者の近隣工事との掛け持ちについて
8. 工事の完成検査について
9. 調査基準価格の引き上げについて
2. 非販売の積算基準等の公開について
3. 指定部分工事について
4. 隣接工事における工区割について
5. 石材投入費について
6. ブロック製作ヤードについて
7. 排水工の施工について
8. 仮設材（敷鉄板）の運搬費について
9. 舗装工事の冬期施工について
10. アスファルトマット以外の漂砂対策工について
11. 大型クレーンの拘束費用について
12. 作業船の回航費・拘束費について
13. 船舶の損料明示について
14. 海上輸送費（フェリー代）について
15. コンクリートの施工について（設計基準強度）
16. コンクリートの海上運搬方法及びこれに伴うコンクリートの配合について
17. 台船バケット打設の日当り打設規模について
18. ケーソン製作日数の算定について
19. コンクリートのひび割れについて
20. 胸壁コンクリート上の作業における安全措置について

設計・施工に関する要望

1. 設計変更について

北海道水産林務部 平成25年度 水産土木・森林土木工事等 優秀業者表彰

北海道水産林務部は、平成25年12月17日KKRホテル札幌で25年度工事等優秀業者感謝の贈呈式を挙行了。同部所管の24年度完成工事等において、その功績がきわめて顕著で、水産林務行政の推進に尽力した工事部門19社、委託部門2社に知事感謝状が手渡された。

表彰された優秀業者のうち、水産土木部門では当協会の勇建設(株)、(株)菅原組、安田建設(株)、釧石工業(株)、真壁建設(株)の5社が受賞した。森林土木部門では、(株)ササキが受賞した。

〔水産土木部門受賞〕

勇建設(株) (札幌)	代表取締役社長	坂	敏弘
(株)菅原組 (函館)	代表取締役社長	菅原	徹
安田建設(株) (枝幸)	取締役社長	安田	最次
釧石工業(株) (釧路)	代表取締役	西村	智久
真壁建設(株) (根室市)	代表取締役	山下	洋司

〔森林土木部門受賞〕

(株)ササキ (稚内)	代表取締役	佐々木	正明
-------------	-------	-----	----

我が社の安全衛生管理

白鳥建設工業株式会社 管理部次長 高木 清志

1. はじめに

当社は、昭和2年4月創業以来、今年で87年を迎え、港湾工事を中心に日本海特有のきびしい気象条件を克服してきた経験から、高い技術と信頼で業績を伸ばしてまいりました。当社は各個人の「個性、積極性、自主性」を大切に、全社員一丸となって顧客の満足を得る構造物の造りこみに取り組み、やり遂げた工事に対し「自信・誇り・責任」を持ち信頼される企業を目指して日々邁進してまいりました。

また、長い歴史の中で培われた伝統と風土・企業文化、そして多くの先達の想いを大切に、「自然と社会の共存」をテーマに『人にやさしい海づくり』を実現するため、さらなる知識・技術の習得及び研究・開発と設備の充実を図り、「海」に関するあらゆる分野で活力ある環境の創造に貢献していきたいと考えます。

マネジメントシステム（品質・環境・労働安全衛生）の3管理システムをいち早く導入し、顧客や地域に対し安全でより優れたものを提供できるよう、留萌管内を拠点とし道内や東北へ事業を展開しております。安全衛生活動として労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS 18001）を取得し、システムの継続的運用を目指し、本社と作業所が一体となった安全衛生水準の向上を図っております。また、毎月1日を店社安全パトロールの日と定め、役職員と現場職員と一体となり危険箇所の排除を行っております。

2. 安全衛生基本方針

当社は、「働く人のかげがえのない命を守る」を基本姿勢に公衆災害を含めたすべての災害防止に努めています。

— 安全衛生活動の行動指針 —

- ①安全を最優先し 災害ゼロを目指す。
- ②危険の芽は小さなうちに摘み取る。
- ③安全で安心な快適職場を形成する。
- ④全社一丸となり安全衛生管理水準の向上を図る。

3. 安全衛生管理計画

安全衛生管理計画の基本は、当社の労働安全衛生システムに基づき、前年度の労働安全衛生活動での報告、災害事例等を参考にして年度目標を設定し、店社・作業所及び工事部門（潜水・機材・作業船）の重点実施事項を策定し、施工と安全が一体化した安全衛生管理の定着を図っています。

4. 安全衛生活動

(1) 安全大会

毎年5月に全社員と協力会社に参加して開催します。大会では、労働基準監督署、海上保安部、警察署から講師を迎え、安全講話をしていただき、年度安全衛生実施計画の説明、安全宣言を行い、安全意識の高揚を図り「無事故・無災害」を誓います。



安全大会『社長訓示』

(2) 店社安全パトロール

毎月1回、役職員の参加による現場パトロールを実施し、現場の安全衛生管理における問題点をチェックシートを使用して点検します。指摘事項があった場合は直ちに是正するとともに、毎月行われる安全衛生委員会を通じて水平展開し、安全衛生管理水準の向上を図っています。



店社安全パトロール

(3) 安全衛生委員会

本社安全衛生委員会メンバーにより、毎月、開催します。委員会では、前月の安全衛生活動の報告、改善点や身近で起きた労働災害等について防止対策の策定を行い災害防止活動へ向けた検討を行っています。



安全衛生委員会

(4) 交通安全

啓蒙活動として、全社員がセーフティラリー運動に参加し、年間を通じて無事故・無違反に努めています。また、季節ごとの全国交通安全運動期間では、地域の小中学校、老人会と共に「旗の波運動」を行っています。



地域の小中学校、老人会と共に「旗の波運動」

交通事故撲滅は国民の願い、私たち企業においても地域から悲惨な交通事故を無くす事を願い、期間限定（5月～10月末）ではありますが当本社前（隣接国道232号）にて、潜水士モニュメント（通称ダイバーくん）を設置し、交通事故防止活動として注意喚起を呼びかけています。



通称『ダイバーくん』

5. 作業所安全衛生活動

作業所では、リスクアセスメント手法による安全管理の充実化を進めており、月別安全衛生管理計画、工種毎、日々の作業などに特化したリスクを洗い出し、高リスクな作業に対して低減策を設定し、リスクの再評価を毎日のKY活動に生かし安全衛生管理活動を実施しております。

近年急増している墜落転落災害の防止として、足場の設置時などには、外部点検者による設置時の点検を取り入れ安全管理活動を実施しております。



外部点検者による足場点検

高所作業時等の災害防止対策として、安全帯試行訓練施設を各作業所に設け、安全訓練時に実施しています。



安全訓練活動『安全帯試行訓練』

6. むすびに

これからも、本社、現場、協力会社一丸となり安全衛生基本方針を基にリスクアセスメントの実施、一人一人が、強い責任感と強い信念を持って安全安心な快適職場を整備し、『人にやさしい海づくり』を実現するため日々邁進してまいります。

江差港災害復旧その他工事

RH13



b/H_0'

株式会社 森川組 江差港作業所
佐々木 健吾

1. 工事の概要

江差港では、平成25年3月2日の低気圧に伴う大時化により、外郭施設である防波堤（西外）及び防波堤（西）が被災しました。防波堤（西外）においては、本体工ケーソン5函が港内側へ滑動し（最大3.9m）、その内1函の側壁が損傷して中詰砂が流失し、消波工246.7mが沈下しました。また、防波堤（西）においては、胸壁工が32.4m被災し、そのうち8.0mが亡失しました。本工事では、ケーソン及び上部コンクリートの修復と沈下の激しい箇所に製作したブロックの据付を行うものです。

また、瀬棚港については、南側の港口からの侵入波の影響で-7.5m岸壁の静穏度が減少し、また港内の土砂移動による埋没を抑制するために、防波堤（東外）を整備することとしており、本工事では防波堤（東外）で使用するセルラブロックの製作を行います。



防波堤（西外）被災後のケーソン・消波工の状況

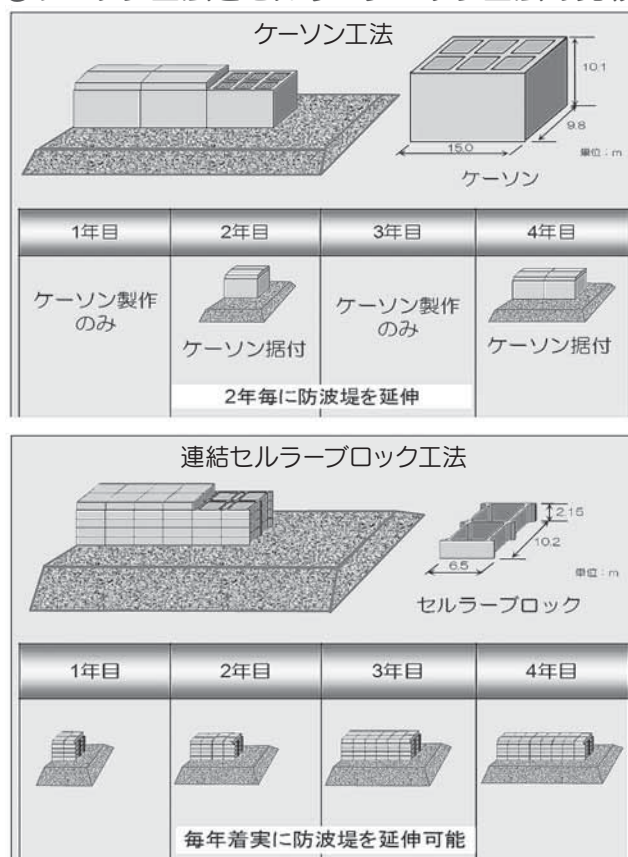


ケーソン側壁損傷部

2. 瀬棚港 連結セルラブロック工法

ケーソン式防波堤は、急速施工が可能で施工時の耐波性に優れ、大規模施工による効率化が図られる最も多く用いられている防波堤の構造形式です。しかし、ケーソン1函のみの製作等、施工規模が小さい場合には、総事業費が割高になったり、施工期間が長くなることがあり、効率的な防波堤整備を実現するため、ケーソン工法と比較してコスト削減を可能とするセルラブロックを用いた防波堤整備工法を開発し、今年度より瀬棚港にて施工を行うことになりました。

●ケーソン工法とセルラブロック工法の比較



セルラブロックという小型のブロックを水中コンクリートにより連結するもので、この構造は施工規模が小さい場合であっても、連結するブロック数により最大限の効果が発揮出来る防波堤整備が可能となります。

3. 工事の作業状況

江差港は、8月上旬に着手し10月下旬までにブロックを製作し、サケ定置網漁の終了後、11月上旬から海上施工となります。

ケーソン側壁損傷部に型枠を取付けて、ボーリングマシンにより上部コンクリートに穴を開け水中不分離コンクリートを注入します。

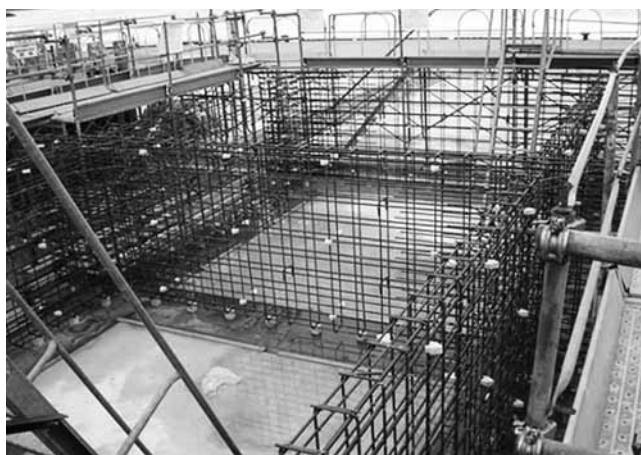
沈下した消波工は、40t消波ブロックを製作し海上起重機船にて据付します。



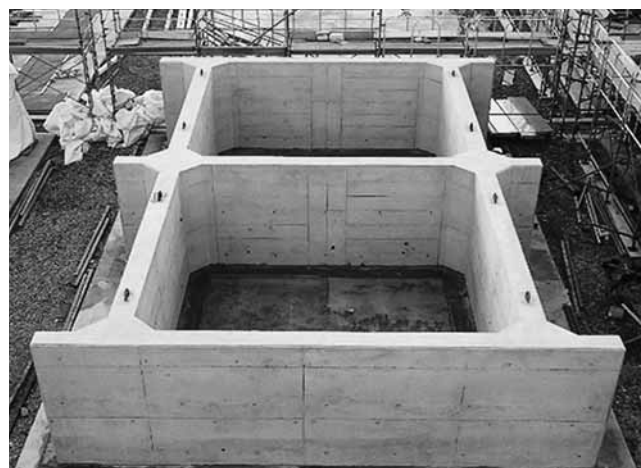
江差港 水中不分離コンクリート注入状況

瀬棚港は、セルラブロックのAタイプ（W=64.0t）、Bタイプ（W=62.5t）を各4個製作します。

作業は9月中旬から10月中旬に完了しました。



瀬棚港 セルラブロック鉄筋組立完了



瀬棚港 セルラブロック製作完了

4. 工事の留意点

江差港については、内港にあるナマコの養殖施設への影響に配慮し、濁水の出ない水中不分離コンクリートを使用しました。

また、11月以降の日本海での海上作業のため、天気図を確認し、作業可能日を探す毎日でした。

瀬棚港のセルラブロックの製作については、4段重ねで据付することから、上面・下面の平坦性を重視しました。

そのため、基礎コンクリートの均し天端の平坦性を向上させ、鉄筋・型枠の組立作業は、ケーソン製作の実績のある下請業者を採用しました。

5. あとがき

江差港の災害復旧工事は、いちばん海象条件を選ぶ型枠の設置・水中不分離コンクリートの打設が無事完了し、後何回か沖側から潜水士と起重機船によるブロック撤去・据付作業を残すのみとなりました。

瀬棚港のセルラブロックも打設後4週強度の確認も終わり、竣工検査を待つのみです。

当工事の工期は平成26年2月14日で、この会報が1月下旬にでる前に、工事が完成出来るように努力したいと思います。

私の趣味

『歌』

岩倉建設(株) 執行役員 海洋部長
竹 中 正

9月だったでしょうか、協会広報委員の大西さんに今度「北のみなと」の『私の趣味』に寄稿してくれないかと言われて、何で自分なの???と。

そういえば、8月3日の苫小牧港キラキラ公園で行われたみなと祭り協賛の「みなとフェスティバルの歌謡ショー」で、私が歌っていた所を小山さん（広報委員部長）が写真を撮っていたけど、あれか…と。

「写真が無ければ移したのがあるから文書だけでも良いよ」と。文才の無い私は出来れば断りたかったのですが。

趣味が『歌』といっても、私も皆さん同様せいぜい酒を飲んだ時にカラオケで歌うのがいいところでした。（趣味と言えるのかどうか）

それが3年程前、今まで出たこともないカラオケ大会に出た、と言うか出されたと言うか…。結果その大会で優勝してしまったのです。

大会は、優勝すると全国大会に出場する権利があり、全国大会に出場しないのであれば、オリジナル曲を1曲プレゼントする（CDに吹き込んでくれる）と言うものでした。

全国大会に出かける時間もないので曲を貰うと言う事になったのですが、そのうち「1曲だけのオリジナルじゃどうにもならない。カップリング曲を作って本格的なCDを作らないか」と言う話が持ち上がり、どの位の費用が掛かるかも分からず悩んでいると、何とかなる、曲は私が作ってやるという人が現れ、3曲出来たから計4曲、CDは2枚作れると…。





私の心配を他所に話はどんどん進んでいざ録音。「酒を飲んで歌うのと一緒だ」位に考えていた私は、当日風邪気味で、歌ってみたら声はガラガラ。これじゃ録音は出来ないと結局録音は中止、再度録音しなおす事になってしまいました。何人もの方が係わって準備していたので大いに反省させられた次第です。

日を改めて録音、出来上がったのが、「さだめ恋」と「北漁師」、「なじみの店」と「さんろく蛸」の2枚のCD。

出来上がったCDを聞いてみると、ここはもう少しあーすればよかった、こうすればよかったと反省しきり、なかなか難しいものです。今は第一興商のカラオケDAMなどに3曲が配信されています。

その後、私の歌を聴いて、こんな曲を作ったので歌ってくれと言う人も現れ、3枚目のCD、「枝幸の漁師(おとこ)」と「今夜は眠らせて」も作らせてもらいました。(因みに、カラオケで歌っても、著作権料は、作詞、作曲、編曲者に入るだけで、著作権のない私には1円も入らない⇒知らなかった…。残念。さっぱり実益は無いので、趣味と言うことです)

自分の曲が、カラオケで流れるなんて信じられないような話ですが、今では「私のオリジナル曲です」と言って歌ったりして楽しんでいます。恥ずかしいやら、嬉しいやら…。

CDを出したことで色々な人と会うことも出来ました。日本を代表する作詞家の先生達（里村竜一、湯川れい子など）、地方で歌手として頑張っている人、私の歌を聞いて勝手連で応援してくれる人、そして一緒に歌を楽しむ仲間など。今までの土建屋人生だけでは、先ず会うこともない人たちとの出会いです。

今後も、色んな人との出会いを大切に、趣味の『歌』を歌い続けて行きたいと思います。

大きな声で歌う、大きな声で笑うことは健康にも良いようです。最近は、カラオケ教室、カラオケ同好会、カラオケサークル等で歌を楽しむ人が増えているようです。

昼カラ（昼間にスナックなどでカラオケを歌う）と言って、昼間から気軽に歌える場所も沢山あります。皆さんも大きな声で歌ってみてはどうでしょう。

北海道開発局港湾部門におけるCPD認定講習会の取組みについて

北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課

1. 北海道開発局の取組み

CPD（継続教育）認定講習会は主に大都市での開催が多くありますが、地方開催は受講者の移動に負担が少なくなることや、工事の総合評価落札方式の評価項目としてCPDへの取組みが評価の対象になっているなどの理由により、地域の土木技術者から地元での開催要望が多く寄せられています。

このため、北海道開発局では、開発建設部や事務所で実施する講習会については、受発注者のスキルアップや地域の技術者への貢献を図るため、CPD認定講習会としての取組みを実施しています。

2. 港湾部門の取組み

開発建設部の港湾部門（港湾・空港・漁港関係）が実施（後援含む）する技術講習会はCPD認定講習会として開催しているほか、工事安全パトロール、工事安全協

議会等の開催時に講習を一体とした効率的な開催に努めるなど、直轄職員、工事関係者が参加しやすい環境、実施事務局等の負担軽減の工夫を図りながら積極的な取組みを進めています。

3. 平成25年度の取組み状況

平成25年度からは本格的に全道の港湾部門において開発建設部及び港湾事務所等が主催するCPD認定講習会が展開されています。

平成25年度の開催状況は、11月25日迄に23回講習会を実施（別紙参照）しており、直轄職員や地域の土木技術者の技術力及び資質の向上に資する成果を上げています。

CPDの単位取得は地域の土木技術者にも歓迎されており、港湾部門では今後とも地域貢献の観点からもCPD認定講習会の積極的な実施に取組んでまいりますので、多くの工事関係者等の参加をお待ちしております。



（写真） 稚内港湾事務所工事安全連絡会議の第5回CPD講習会（平成25年10月31日）の様子
安全講座「安全技術の伝承と創造」講師：本局港湾建設課 梅沢課長

平成25年度 北海道開発局港湾関係CPD(継続学習)認定講習会の開催実績

平成25年11月25日現在

開発建設部	実施主体	講習会名	講習内容	講師	CPD単位	開催日	参加者数	CPD取得者数
函館	北海道ポートエンジニアリング協会 函館開発建設部築港課	ポートエンジニアリング講習会	①港湾構造物における地質調査とデータの活用方法について ②漁港の電子台帳について ③地球環境の世界的港湾	①パブリックコンサルタント㈱地質土質部門チームマネージャー ②㈱アルファ水工コンサルタンツ特任執行役員 ③北日本港湾コンサルタント㈱企画部長	2	H25.11.21	80	29
小樽	小樽開建港湾漁港技術力向上会議 計画・調査部会	小樽港フィールド・ラーニング	港湾工学における廣井勇博士の実績について	日本データサービス㈱取締役副社長	2	H25.7.18	88	12
小樽	小樽港湾事務所 工事安全連絡協議会	出前講座	①新技術活用のメリットと見直しについて ②施工効率向上プロジェクト	①局事業振興部技術管理課技術活用係長 ②小樽開建技術管理課長	1	H25.8.9	25	9
小樽	小樽港湾事務所 工事安全連絡協議会	安全講話	工事の安全について	小樽労働基準監督署衛生安全課長	1	H25.11.8	28	5
室蘭	室蘭港湾事務所 工事安全連絡協議会	工事安全パトロール講習会	安全講座:建設現場における安全管理について	室蘭開建 工事品質管理官	1	H25.7.25	22	10
室蘭	苫小牧港湾事務所	出前講座	①施工効率向上プロジェクト ②設計変更ガイドライン ③工事技術検査マニュアル	①②本局技術管理課 基準第1係員 ③室蘭開建 工事検査官	2	H25.9.27	20	10
室蘭	浦河港湾事務所 工事安全連絡協議会	浦河港湾事務所工事安全連絡協議会安全講習会	①労働安全衛生管理について ②施工効率向上プロジェクト・工事における書類の簡素化 ③H25年度港関連事故について	①浦河労働基準監督署 ②本局技術管理課長 基準第2係長 ③浦河港湾事務所工務課長	3	H25.8.28	22	11
室蘭	浦河港湾事務所 工事安全連絡協議会	浦河港湾事務所工事安全連絡協議会第2回安全講習会	安全講座:安全技術の伝承と創造	本局 港湾建設課長	2	H25.11.14	19	15
室蘭	苫小牧港湾事務所	安全講話及び意見交換	安全講座:安全技術の伝承と創造	本局 港湾建設課長	1	H25.11.15	28	14
帯広	北海道ポートエンジニアリング協会 帯広開発建設部築港対策官	ポートエンジニアリング講習会	①港湾構造物における地質調査とデータの活用方法について ②漁港の電子台帳について ③雪氷期の津波災害について	①パブリックコンサルタント㈱地質土質部門チームマネージャー ②㈱アルファ水工コンサルタンツ特任執行役員 ③㈱クマシロシステム設計 技術解析部長	1	H25.10.24	56	20
帯広	築港対策官工事安全連絡協議会	安全技術講習会	安全講座:安全技術の伝承と創造	本局 港湾建設課長	1	H25.11.13	21	5
釧路	釧路港湾事務所 工事安全連絡協議会	釧路港工事安全連絡協議会総会・講習会	安全講話:工事安全について	釧路労働基準監督署次長	1	H25.5.28	24	10
釧路	釧路港湾事務所 工事安全連絡協議会	工事安全パトロール及び講習会	安全講習会:工事の安全について	釧路開建 工事品質管理官	1	H25.6.17	19	11
釧路	釧路港湾事務所 工事安全連絡協議会	工事安全パトロール及び講習会	安全講習会:海上工事における安全対策	釧路海上保安部交通課長	1	H25.9.12	27	14
釧路	釧路港湾事務所 工事安全連絡協議会	工事安全パトロール及び講習会	①環境家計簿の取り組みについて ②新技術活用のメリットと見直しについて ③工事技術検査マニュアル	①本局技術管理課企画係員 ②本局技術管理課 技術活用係長 ③釧路開建技術管理課 企画調整係長	2	H25.10.28	30	17
網走	網走地区港湾・漁港工事安全連絡協議会 紋別港湾事務所工事安全連絡協議会	網走・紋別港湾事務所出前講座	①CIMの取り組みについて ②新技術活用のメリットと見直しについて ③工事技術検査マニュアル	①本局技術管理課 技術開発係長 ②本局工事管理課 技術調整第1係長 ③網走開建 技術管理課長補佐	2	H25.10.25	23	14
留萌	北海道ポートエンジニアリング協会 留萌開発建設部築港課	ポートエンジニアリング協会講習会	①港湾構造物における地質調査とデータの活用方法について ②携帯端末を利用した津波避難情報提供システムについて ③漁港の電子台帳について	①パブリックコンサルタント㈱地質土質部門チームマネージャー ②日本データサービス㈱次長 ③㈱アルファ水工コンサルタンツ特認執行役員	2	H25.10.1	49	8
留萌	留萌開発建設部築港課	港湾工事安全講習会	安全講話:安全技術の伝承と創造	本局 港湾建設課長	2	H25.11.22	30	—
稚内	稚内港湾事務所 工事安全連絡協議会	第1回CPD講習会	コンクリートの耐久性向上に関する技術について	寒地土木研究所耐寒材料チーム 上席研究員	2	H25.7.30	55	31
稚内	稚内港湾事務所 工事安全連絡協議会	第2回CPD講習会	①港湾工事の事故事例と安全対策 ②施工体制の点検内容について ③工事における安全対策	①本局港湾建設課 第2建設係長 ②稚内開建 工事品質管理官 ③稚内開建技術管理課 施工管理係長	2	H25.8.28	66	34
稚内	稚内港湾事務所 工事安全連絡協議会	第3回CPD講習会	海上工事における最近の労働災害の発生状況	稚内労働基準監督署長	2	H25.9.30	35	22
稚内	稚内港湾事務所 工事安全連絡協議会	第4回CPD講習会	港湾施設における地震津波対策の基本的な考え方	本局港湾建設課 港湾保安安全推進官	2	H25.10.17	45	23
稚内	稚内港湾事務所 工事安全連絡協議会	第5回CPD講習会	安全講座:安全技術の伝承と創造	本局 港湾建設課長	2	H25.10.31	47	25

イベント

苫小牧港西港区西ふ頭耐震強化岸壁 供用開始記念式典を開催

室蘭開建と苫小牧港管理組合共催の「苫小牧港西港区西ふ頭耐震強化岸壁供用開始記念式典」が9月15日、現地で執り行われた。

室蘭開建は、苫小牧港西港区西ふ頭において、老朽化による施設の安全性および機能低下防止や大規模地震発生時の緊急輸送物資の輸送を確保するため、岸壁改良を23年度から実施。このほど、-9m岸壁660mのうち、耐震強化岸壁である1バース220mが完成し、9月1日から供用開始となった。

当日、天候はあいにくの雨となったが、苫小牧市の岩倉博文市長や室蘭開建の戀塚貴部長をはじめ関係者が出席。はじめに、岩倉市長があいさつに立ち、「苫小牧港はことし開港50周年を迎え、市の発展とともに、道の経済を支える港湾として大きな役割を果たしている。きょうを苫小牧港のさらなる第一歩とし、飛躍への通過点と

なれば」と期待を寄せた。続いて、戀塚部長が「岸壁の完成によって、より近代化したネットワークを形成できるのではないか。残る岸壁も整備を継続するので、引き続き協力をお願いしたい」と式辞を述べた。

このあと、国土交通省の山縣宣彦港湾局長が「苫小牧港の新たな一歩を踏み出してほしい」などとあいさつしたほか、堀井学衆議院議員、高橋みほ衆議院議員、苫小牧港管理組合議会の遠藤連議長がそれぞれ祝辞を述べ、苫小牧港の今後の活躍に期待を寄せた。

事業概要についての説明のあと、セレモニーを実施。代表者らによってテープカットとくす玉割りが行われ、耐震強化岸壁の完成を祝うとともに、苫小牧港の今後の発展に期待した。

(記事は北海道通信から抜粋して掲載しました)



苫小牧港西港区西ふ頭耐震強化岸壁供用開始記念式典



苫小牧港西港区西ふ頭耐震強化岸壁供用開始記念式典

供用開始記念式典（苫小牧港湾事務所提供）

白老港第3商港区 供用開始記念式典を開催

室蘭開建と白老町は11月2日、白老港で第3商港区供用開始記念式典を執り行った。関係者約110人が出席。大型貨物船に対応できる-11m岸壁などの完成を祝うとともに、白老港を核とした地域の活性化に期待を寄せた。

はじめに、港湾管理者である白老町の戸田安彦町長が式辞。白老港の重要性を強調した上で、「今後とも道内物流拠点の充実に加え、地震・噴火など大きな災害時に貢献できる港として機能的で利用しやすく、地域に親しまれる港湾になれば」と期待した。

続いて、室蘭開建の戀塚貴部長があいさつ。「第3商港区の供用により、道央圏物流の一翼を担う役割が一層大きくなり、地域経済への寄与が一段と高まったと考えている」と述べ、「今後とも白老町の皆さんとの連携のもと、地域の活性化や発展のために全力で取り組んでい

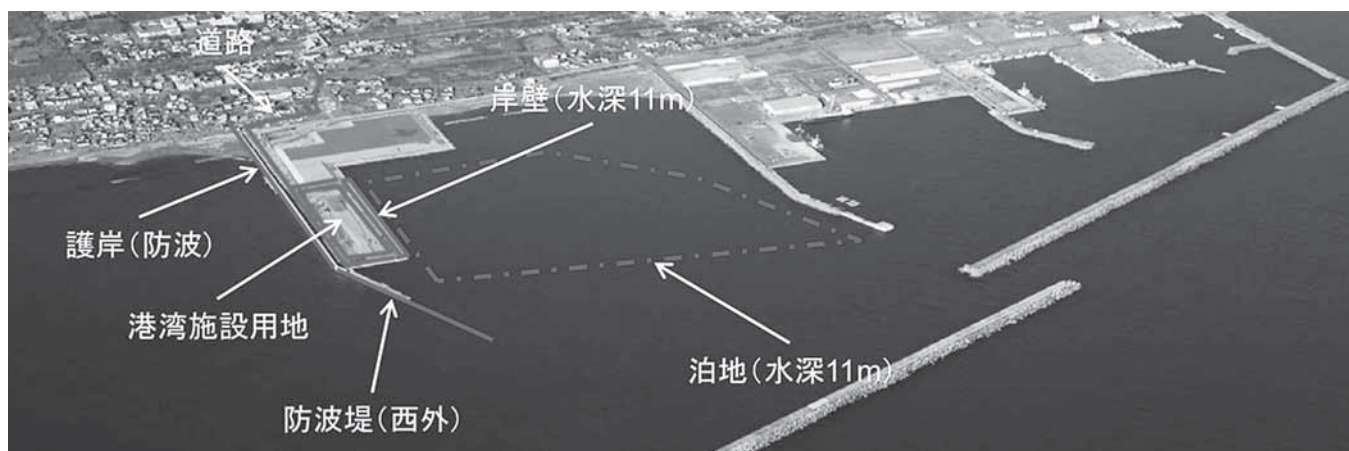
きたい」と呼びかけた。また、国交省北海道局の関博之局長のあいさつを、深海正彦港政課長が代読。「白老港は地域産業などを支える重要な港湾。今後はこれまでに以上に、物流の拠点、震災時に貢献できる拠点として大いに期待している」と述べた。

来賓祝辞では、国会議員5人、道議会議員2人が祝辞を述べ、地域発展に向け白老港が果たしていく役割に期待を寄せた。

このあと、室蘭開建苫小牧港湾事務所の伊藤晃所長が事業概要について説明し、これまでの施行課程などを紹介した。

最後に、代表者らによるテープカットを行い、第3商港区の完成を盛大に祝った。

(記事は北海道通信から抜粋して掲載しました)



第3商港区箇所図（苫小牧港湾事務所提供）



供用開始記念式典（苫小牧港湾事務所提供）

独占禁止法及び反社会的勢力排除に関する講習会が開催される

日時 平成25年9月3日(火) 14:00~17:30
場所 ホテル札幌ガーデンパレス
主催 (一社)日本埋立浚渫協会
北海道港湾空港建設協会

平成25年9月3日ホテル札幌ガーデンパレスにおいて一般社団法人日本埋立浚渫協会と北海道港湾空港建設協会の共催で「独占禁止法及び反社会的勢力排除に関する講習会」を会員72名の参加を得て開催された。

主催者代表として(一社)日本埋立浚渫協会の平尾壽雄専務理事、北海道港湾空港建設協会の宮崎英樹会長挨拶のあと講習が始まった。

「独占禁止法と談合問題について」と題して、公益財団法人公正取引協会事務局長の杉浦総一郎氏の講習、「企業対象暴力の現状と対策について」と題して、公益財団法人北海道暴力追放センター事務局長の下立実氏の講習のあと、最後に国土交通省港湾局総務課調整官浅井文威氏の「港湾行政の近況について」のお話を聞いた。

講習内容

「独占禁止法と談合問題について」

- 1) 繰り返される談合
- 2) 談合は何故なくなるらない
- 3) 独占禁止法違反に対するリスクの高まり
- 4) 独占禁止法とは
- 5) 不当な取引制限とは
- 6) 事業者団体による競争制限行為
- 7) 最近における違反事例

「企業対象暴力の現状と対策について」

- 1) 暴対センターと反社会的勢力の排除
- 2) 暴力団等に対する基本的対応
- 3) 暴排ビデオ上映(あなたならどうする)

「港湾行政の近況について」

- 1) 港湾行政における主要政策課題
- 2) 港湾法の一部改正の概要
- 3) 入札及び契約事務に関する最近のトピックス



(一社)日本埋立浚渫協会 平尾壽雄専務理事



北海道港湾空港建設協会 宮崎英樹会長

日本港湾空港建設協会連合会が セミナーを開催

日本港湾空港建設協会連合会（日港連、川嶋康宏会長）は9月24日、札幌市中央区の札幌ガーデンパレスで第83回日港連セミナーを開いた。国土交通省港湾局や北海道開発局の担当者が、港湾施設の防災・老朽化対策や産業競争力強化に向けた物流対策など港湾空港行政の取り組みについて情報提供した。

冒頭のあいさつで川嶋会長は「国交省や北海道開発局から港湾行政に関する話題提供をいただく。セミナーで得た知識を今後の活動に生かし、有意義なセミナーにしてほしい」と述べた。

セミナーでは、国交省港湾局技術企画課の畠田繁実港湾工事安全推進官が「港湾を取り巻く最近の動向」、北海道開発局港湾計画課の佐々木純港湾企画官が「北海道における港湾空港行政の取り組み」、北海道開発局港湾建設課の早川哲也港湾保安保全推進官が「北海道の『みなと』と『技術開発』」をテーマにそれぞれ情報提供したほか、北海道大学公共政策大学院の小磯修二教授が「北の座標軸」と題して講演した。

（記事は日刊建設工業新聞から抜粋して掲載しました）



セミナー状況



会場状況

根室さんま祭り

第21回根室さんま祭りは9月21日、22日の両日、好天に恵まれてにぎわい、道内外からの観光客と市民を合わせた2日間の来場者は、2万3百人を数えた。用意した約3.2トンの鮮さんまを食べ尽くし、つかみ取りなどのアトラクションに歓声を上げた。地元水産加工業界が自信を持って送り出した根室産鮮さんまの箱売りも約4千七百箱を早々と完売する人気を集めた。人出は、ほぼ例年並みのにぎわいになった。

場内では、炭焼き用の容器とはしを百円で購入した人に、鮮度抜群のさんまが食べ放題で配布された。来場客は、全長百メートルの岸壁炉端に陣取り、炭火で焼いて脂の乗った根室さんまを堪能した。今年は、祭り期間中

もさんま漁船が通常どおり操業となったため、呼び物の集魚灯ライトアップは見送られたが、集魚灯モニュメント点灯や花火打上げなどの演出を加えて、照明の下で夜の部もにぎやかに盛り上がった。

さんま祭りならではの人気アトラクションとなった「大漁さんまのつかみ取り大会」には、2日間とも老若男女が挑戦。冷たい氷水に悲鳴を上げながら、しっかりと両腕を入れ、大型さんまをすくい上げた。

一方、箱売りには最大1時間半待ちという長蛇の列ができ、市価より安い4キロ25尾入り1箱2千円の鮮さんまが飛ぶよう売れた。

(記事は根室新聞から抜粋して掲載しました)



炭焼きを堪能する来場者 (釧路開発建設部提供)



にぎわう祭り会場 (釧路開発建設部提供)

苫小牧港「ホッキまつり」大盛況

過去最高 2万2000人が舌鼓 混み合う会場「また来年も」

第3回苫小牧漁港ホッキまつりが10月20日、開かれた。会場となった苫小牧港・西港漁港区周辺は、苫小牧沖で採れた新鮮な海の幸やホッキ貝を使った料理を求めて訪れた市民や観光客ら約2万2000人でにぎわった。

目玉の「苫小牧産ホッキ貝（1セット7個で1000円）」は、昨年の2倍の2000セットを用意。イベント開始前から300人以上が長蛇の列をつくり、1時間30分完売した。このほか、人気のサケの棒引きや子どもを対象にした無



ホッキ貝料理を味わう来場者

料のホッキ狩り、ステージイベントでのホッキ早むき競争、豪華賞品が当たる前浜ビンゴも大いに盛り上がった。会場内は、ホッキカレーやホッキご飯、焼ホッキを求めて並ぶ来場者ホッキずし、ホッキコロケなどホッキ貝を使った各種の料理が提供された。来場者は、水揚げ日本一を誇る苫小牧の肉厚で味のよいホッキ貝に舌鼓を打っていた。千歳から家族5人でまつり会場を訪れた栗原欣也さん（44）は、「ご当地のホッキ料理はひと味違うおいしさ。また来年も家族で訪れたい」と笑顔で話していた。同まつりは、苫小牧漁業協同組合などで組織する実行委員会（沢口照実委員長）が主催。来場者の2万2000人は、昨年を4000人上回り、過去最高を記録した。



焼ホッキを求めて並ぶ来場者

（記事は苫小牧民報から抜粋して掲載しました）

追直漁港で室蘭さかなの港町同窓会

第16回室蘭さかなの港町同窓会（同実行委主催）が4日、室蘭市舟見町の追直漁港で開かれた。会場には地元海産物など“秋の恵み”を格安販売する「ふれあい市場」や、恒例の「サケのぼう引き」が行われ、大勢の市民でにぎわった。

人気の「サケのぼう引き」「サケのつかみ捕り」は整



秋の恵みを格安販売する「ふれあい市場」



室蘭さかなの港町同窓会で披露された踊りの様子

理券配布の午前9時には長蛇の列をつくった。水槽のサケをひもで引っ張るぼう引きは、メスや5匹付きの“当たり”もあり、引き当てた市民らも大喜びだった。

鮮度抜群の魚介類に、もぎたて野菜が並んだ「ふれあい市場」は、朝イカやサンマ、ホッキ貝、活クロソイなどを格安で販売。サケ鍋や魚介類の炭火焼きコーナーでは大勢の市民が秋の味覚を味わった。

イベントに合わせ室蘭・道立栽培水産試験場が一般公開され、多くの市民が魚の生態を学んだ。

（記事は室蘭民報から抜粋して掲載しました）

大型客船寄港

室蘭港に全長310メートルの 巨大客船が入港

豪華客船ボイジャー・オブ・ザ・シーズ（13万7276トン）が9月11日、道内では初めて室蘭港に寄港した。道内への客船では過去最大。

純白に輝く巨大な船体が崎守埠頭第6バースに接岸すると、全道各地から集まってきた市民らが感嘆の声を挙げた。室蘭港に入港した客船で、これまで最大だった「サファイヤ・プリンセス」「ダイヤモンド・プリンセス」を総トン数で2万1千トン上回る。船内で歓迎セレモニー

が行われ、青山剛室蘭市長が「室蘭の夜景は日本一です」と歓迎し、花束などを船長に贈った。欧米や中国からの乗客2675人は、出港する12日までの2日間、室蘭、西胆振観光に繰り出し、各地で国際交流が繰り広げられた。

バハマ船籍で全長310メートル、幅48メートル、高さ63メートル。乗客定員は3114人で、船内にスケートリンクや劇場、ショッピングモールも備える。米国のクルーズ会社が運航する。（記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました）



道内での過去最大客船となるボイジャー・オブ・ザ・シーズ



◎事務局だより◎

北海道港湾空港建設協会

【常任理事会】

◆常任理事会を平成25年11月25日（月）ホテル札幌ガーデンパレスで開催しました。

議題

1. 日港連運営委員会等について
2. 平成26年度 日港連会長表彰候補者について
3. 北海道開発局港湾空港部長への要望事項(案)について
4. その他

【広報委員会】

◆会報誌第81号発刊に向けた編集会議を平成25年11月15日（金）広報委員により、水産庁ビルの会議室で開催しました。

【技術委員会】

◆技術委員会を7月24日（水）ホテル札幌ガーデンパレスで開催しました。

議題

- 平成25年度行事予定について
 - 平成25年度活動方針について
- ◆技術委員会を11月21日（木）北海道建設会館で開催しました。

議題

- 平成25年度北海道開発局港湾空港部長要望案について
 - 港湾工事報告会について
 - その他
- ◆日港連・港湾空港建設協会共催による北海道開発局との要望・意見交換会を12月12日（木）ホテルポルスター札幌で開催しました。

港関係団体連絡会

【連絡会】

◆港関係団体連絡会を平成25年4月19日（金）セントラル札幌北ビルで開催しました。

議題

- 平成24年度収支決算及び平成25年度収支予算(案)について
 - 平成25年度事業計画案について
 - 北海道開発局との情報交換
 - その他
- ◆港関係団体連絡会議を平成25年10月4日（金）北海道建設会館で開催しました。

議題

- 平成25年度要望事項について
- ◆港関係団体連絡会議を平成25年11月1日（金）北海

道建設会館で開催しました。

議題

- 平成25年度要望事項について

【意見交換会】

◆北海道開発局担当者との意見交換会を平成25年11月27日（水）北海道建設会館で開催しました。

議題

- 懸案事項について意見交換
- その他

◆港湾・空港・漁港事業に係わる要望・意見について北海道開発局と意見交換会を12月13日（金）ホテルポルスター札幌で開催しました。

北海道港湾振興団体連合会

◆「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が平成25年10月24日（木）、東京都の砂防会館で開催されました。

日本港湾空港建設協会連合会

【港湾局長意見交換会】

◆国土交通省港湾局長と日港連（理事全員、北海道から宮崎会長が出席）の意見交換会が平成25年11月12日（火）に国土交通省港湾局会議室で行われました。

【日港連セミナー】

- ◆第82回 日港連セミナー（中堅技術者を対象）が平成25年6月27日（木）長崎市で開催されました。
- ◆第83回 日港連セミナー（中堅技術者を対象）が平成25年9月24日（火）札幌市で開催され、当協会から67名が出席しました。
- ◆「日本港湾空港建設協会連合会設立30周年記念講演会」が平成25年11月11日（月）東海大学校友会館で開催され、当協会から5名出席しました。

◎広報委員会だより◎

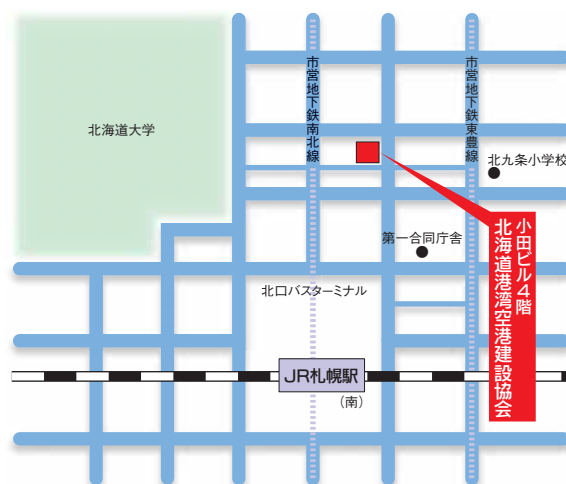
平成26年1月現在の広報委員は次表のとおりです。
今年もよろしくお願いします。

委員長	佐見 誠	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
委員（部会長）	小山 良明	白鳥建設工業(株)
（副部会長）	志賀 保	五洋建設(株)
（副部会長）	東 志郎	萩原建設工業(株)
	大西 治朗	菱中建設(株)
	櫻庭 榮	(株)中田組
	荒井 直人	東亜建設工業(株)
	毛利 照男	釧石工業(株)
	渡辺 修司	(株)菅原組
	大倉 正憲	勇建設(株)



ほっけの水揚げ状況（寿都漁港）

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.81

発行年月 平成26年1月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 小山 良明
 印刷 須田製版